

地域と企業の発展のために、私ども中小企業診断士をご活用ください。

岡山県中小企業診断士会会報



一般社団法人 岡山県中小企業診断士会

2016 年 12 月 15 日発行（第 10 号）

ごあいさつ

けっこういい年だった 2016 年を振り返って



■□代表理事・会長

児玉 健治□■

今年もいろいろなことがありました。中小企業診断士にとっては、依然として追い風が吹いている状況に変わりありません。ありが

たいことです。

私たち中小企業診断士は、地域の中小企業・小規模事業者の皆さま方の経営上の問題解決、さらなる成長を支援する仕事に勤しみ、日々頑張ってきました。少しずつですが、中小企業診断士の存在や価値を認知され、期待もされるようになりました。これは強く肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。しかしながら、他の士業とくらべると、残念ながらまだまだ知名度は決して高くありません。一時は、屋根診断士、床下診断士の方が有名、という時期もあり、つらい思いをしたこともあります。もちろん近年ではさすがに「診断士」と検索ワードを入れると中小企業診断士が一番に出てくるようにはなりましたが、まだまだです。

そこで、今年度、中小企業診断協会の本部では、11 月 4 日を中小企業診断士の日として制定し、日本全国 47 都道府県の中小企業診断協会にて、11 月 4 日の前後 1 週間くらいの中で、それぞれ中小企業診断士の知名度向上のためのイベントを実施することになりました。11 月 4 日は、中小企業診

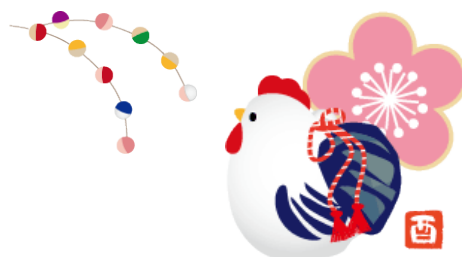
断制度が国の法律で定められた日、すなわち、国家資格としての中小企業診断士が国の法律のなかで明確に位置付けられた日であります。中小企業診断士の誕生日みたいなものです。岡山県においては 11 月 8 日に記念シンポジウムを開催いたしました。多くの方にご参加いただき、盛況の内に終わることができました。この取り組みは毎年続けていくことになりますので、皆さま、来年もぜひご参加ください。

それと、大きな出来事としても一つ。中小企業診断士バッジが新しくなりました。これまでの「RM」マークから金色に輝く「羅針盤」をモチーフにしたやや重厚で国家資格である中小企業診断士にふさわしいバッジになりました。新しくなったことを機に会員の皆さまに着用促進の働きかけをさせていただきましたが、RM時代とは比較にならないくらい着用率が上がっているように思います。

私個人としても、中小企業診断士としての自信と誇りをもって着用していきたいと思っております。

来年も、中小企業診断士がさらに輝きを増していけるよう、岡山県中小企業診断士会として全力で会員の皆様を支援してまいります。この会報も貴重な情報共有ツールとして定着してきました。ぜひともご活用ください。

では、よいお年をお迎えください。



診断士の日 第1回 記念シンポジウム

◆◆診断士の日 記念シンポジウム◆◆

テーマ：『中小企業診断士の有効な活用法』



今年度、新たに 11 月 4 日が「中小企業診断士の日」と制定されました。昭和 23 年 11 月 4 日に中小企業診断士制度が制定されたことが日付の由来です。これを記念して全国 47 都道府県で様々なイベントが開催されました。

岡山では、11 月 8 日に栄えある第 1 回「中小企業診断士の日 記念シンポジウム」を開催。当日は、満員御礼で約 90 名の経営者や支援機関の方が参加され、会場は終始熱気に包まれ大いに盛り上がりしました。参加者のアンケートでは 90%以上の方が「大変参考になった」と答え、はじめて中小企業診断士への経営相談を希望される方もいらっしゃいました。

当日のプログラムは以下の通りです。

＜講演＞ 経営コンサルタントとの付き合い方
講師 明田英治氏
元(株)ベネッセコーポレーション
代表取締役社長
岡山県経営コンサルタント事業協
同組合特別顧問

＜パネルディスカッション＞
けっこうツカエル中小企業診断士！
パネリスト 明田 英治氏
池田 雅子氏
カフェ＆ダイニング
「DINDI (ジンジ)」代表
西下 直子氏
薔薇専門店「薔薇 nico」代表
大林由人氏
株式会社大林商店取締役

明田氏の講演では、大企業の経営者として様々な経営コンサルタントと接してきた経験をもとに、



経営コンサルタントの活用法についてご提案をいただきました。

また、後半のパネルディスカッション

では、明田氏と 3 人の中小企業経営者をパネリストに迎え、中小企業診断士の活用法を語っていただきました。



新会員ご紹介

■田中 良典 ■

はじめまして。平成 28 年 8 月より、岡山県中小企業診断士会に入会させていただきました田中良典（たなかよしのり）と申します。

岡山大学大学院博士前期課程（機械システム工学専攻）を修了後、トヨタグループの自動車部品製造会社に入社。以来、15 年間一貫して技術系情報システムに関する職務を担ってきました。

平成 28 年 3 月に中部産業連盟の養成課程を修了し、中小企業診断士資格を取得した後は、現在の職務を継続しつつ、愛知県中小企業診断士協会、NPO 法人中部ビジネス支援専門家ネットワークなどにも参加し、診断士としての実務的な知識経験の積み上げを図っております。

しばらくは愛知で活動する予定ですが、近いうちに岡山に拠点を移したうえで、トヨタ的なものの考え方など学んできた多くの知識経験を活かし、また、今までお世話になってきた岡山と愛知の人々をつなげる懸け橋となれるよう心掛け、岡山の発展に貢献できるよう活動していきたいと考えております。

先輩会員の皆さま、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

■片山 裕之 ■

平成 28 年 12 月より岡山県診断士会に登録させていただきました片山裕之と申します。

私は、地元岡山県倉敷市出身で、京都大学法学部を卒業後、平成 22 年 12 月から岡山市内で弁護士業を営んでいます。平成 29 年 1 月からは、現在の事務所を退所し、岡山市内で独立開業する予定です。

企業の経営者の方々とお話をさせていただく中で、法的なアドバイスだけでは、真の解決になっていないのではないかと考えさせられる機会が多々ありました。そこで診断士の勉強を始めた次第です。地元の企業の力になれるよう、研究会等にも積極的に参加し、勉強させていただきたいと考えておりますので、先輩会員の皆様ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願いします。

■□ 谷 許 祐 太 □■

平成28年7月より岡山県診断士会に登録させていただきました谷許祐太と申します。関西学院大学法学部卒業後、笠岡信用組合に入組。営業店にて日々集金業務と預金の勧誘に明け暮れておりました。

平成28年4月に中小企業診断士資格を取得し、現在の融資部経営支援室に配属されました。現在の部署では支援先を選定し、モニタリングを行うことがメインの仕事となっています。

地域にはやる気に満ちあふれた中小企業の経営者様が多くいらっしゃいます。そんな経営者の方たちに対して、必要な情報の提供を行い、企業の良いところと一緒にあって更に伸ばしていき、地域の企業をより元気にしていくお手伝いをしていきたいと考えています。

Mastery for Service の精神でより対象の企業に適合した支援ができることを目指して参りますので、先輩会員の皆様、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願いします。

更新研修修了

日時 平成28年9月24日(土) 13時～17時
場所 ママカリフォーラムレセプションホール
受講者数 176名

<必須科目①>「新しい中小企業施策について」

中国経済産業局 産業部 中小企業課
総括係長 佐渡 克利 氏

<必須科目②>「中小企業・小規模事業者のイノベーション・販路開拓支援」

奥谷商売研究所 代表 奥谷 敦子 氏
<演習>「中小企業・小規模事業者のイノベーション・販路開拓支援(演習編)」
奥谷商売研究所 代表 奥谷 敦子 氏

中国経済産業局 佐渡様からは中小企業等経営力強化法と事業承継についてご説明をいただきました。特に本年7月に施行された中小企業等経営力強化法のご説明は、診断士として理解しておくべき内容が多くあり、今後は多くの診断士が経営力向上計画の作成を事業者に進める場面が多くな

るものと思われます。

講義と演習では奥谷商売研究所の奥谷様から、多くの実例をまじえて具体的に販売促進計画の作成プロセスを学ぶことが出来ました。演習内容も充実しており、講師の設定時間内では議論が終わ



らないほど、受講者間の議論は白熱していました。

診断士フォーラム

◆◆11月フォーラム 11/6(日)◆◆

テーマ:『働き方改革のヒント』

講師: 社会保険労務士 川上 陽子 氏

「働き方改革」は「生き方改革」=ワークライフバランスという視点から、女性活躍推進、残業削減、生産性を高める働き方について、ワークを交えながら講習していただいた働き方改革は次の4つのステップを実行していくことで可能になる。
①現在の働き方の確認 ②業務の課題の抽出 ③会議での働き方の見直し ④見直し施策の実施である。

今後ワークライフバランスが必要な人はますます増えることが予想され、職場全体の仕事のやり方を見直すという積極的な取り組みが求められてくるとのことであった。

(参加者8名)

★今後のフォーラム予定★

(H29)1/8、3/12、5/14

フォーラムで発表等、ご希望の方は、事務局までご相談ください。

~~~~~ ご 案 内 ~~~~~

### ◆◆1月新春フォーラム・新年会 1/8(日)◆◆

時 間: 15時～17時 のち新年会を予定

場 所: ピュアリティまきび

講 師: 萩原工業(株) 代表取締役会長

(一社)岡山経済同友会 前代表幹事

萩原 邦章 氏

テーマ: 萩原工業の経営理念

新年会会費: 会員 2,000 円





## 第5回 士業連携フォーラム

日 時：H28 年 9 月 21 日（水） 17 時～20 時

会 場：メルパルク岡山

岡山市北区桑田町 1-13

参加費：7,000 円

内 容

第 1 部 基調講演 17:00～18:20

「意識を変える～人生の角度をあげるには～」

講 師 PHP 研究所認定

ビジネスコーチ／チームコーチ

近藤 正行 氏

第 2 部 懇親会 立食形式 18:40～20:00

各士業から総勢 110 名程が参加して盛大に開催され、当診断士会からは 9 名の参加がありました。当番会である社労士の司会進行の元、基調講演が 1.5 時間あり、その後懇親会が行われました。

懇親会では他士業との交流を通して、今後の連携につながるようなコミュニケーションが活発に行われ有意義な会となりました。

## ノウハウ承継事業

ノウハウ承継事業では、昨年度に引き続き岡田貞夫先生に講師をお願いして実施しています。

昨年度は岡田先生の書籍を教材に、詳細なレクチャーをいただいていたのですが、今年度はオリジナルのレジュメを作成いただき、さらにゲーム形式で実際に身体を使って効率的な作業標準を検討する機会を作っていただきました。

まだまだ学びたい内容が多いので、別途研究会を立ち上げるという動きもあります。

今後もノウハウ承継事業は充実していきますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

ノウハウ承継事業の第二弾として、蓮室光雄先生に講義をお願いすることになっております。

## 研究会事業の活動予定

### ●○地域活性化研究会○●

本研究会は、地域活性化を主題として地域経済や中小企業の振興等、中小企業診断士として支援、もしくは提言できるテーマを選定し、調査研究活動を行っています。現在 8 名（荒木、安藤、小川、大西、太田、加藤、津田、松本）で活動を行っております。

今年度からは、「地域（特に中山間地域）の観光振興」に関する調査研究を行っております。研究

のモデル地域として新見市を選定、6 月には同市担当者への事前ヒアリング、8 月には同市への視察、11 月には同市担当者へのヒアリング・意見交換会を行い、次年度の本格的調査研究に向けた準備に取り組んでいます。

なお、「地域（特に中山間地域）の観光振興」の調査研究にあたっては、同市産業観光課の安達係長の他、阿哲商工会の深井課長にもご協力いただき、行政、商工会と連携した活動を展開しています。今後、商工会議所や観光協会等の方々にもご協力をいただき、より効果的な活動としたいと考えています。

本研究会は、平成 17 年に発足してから現在まで、会員の積極的な参画のもと、地域活性化に寄与できる調査研究活動を継続しています。定期的な会合や自主調査等、活動はかなりハードですが、本研究会にご興味・ご関心ある方は、是非お声掛けください。



（11 月 30 日：ヒアリング・意見交換会）

### ●○循環ビジネス研究会○●

循環ビジネス研究会では、平成 28 年下半期に 2 件視察を行いました。

訪問先 平林金属株式会社

リサイクルファーム御津

（岡山市北区御津高津 120-13）

日 時 平成 28 年 10 月 11 日（火） 13:30～15:30

参加メンバー 黒江正行、黒田俊彦、藤原敬明

内 容

平林金属（株）リサイクルファーム御津は循環ビジネス研究会として 10 数年ぶりに工場見学を行いました。以前の見学では、岡山県はデジタル放送転換前でブラウン管テレビが主流でしたが、最近では液晶テレビも廃棄しているだろうと思いい見学を申し込みました。

工場内は副所長の吉岡忠幸様に案内してもらいました。

ここは、中四国で廃棄された家電 4 品、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機を解体する A グループの工場です。その他に、廃コピー機や入札で落札

した廃PCなども解体しています。

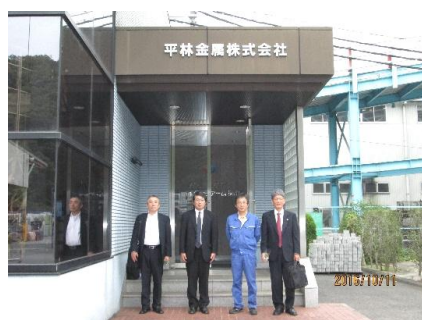
やはり、ブラウン管テレビのラインはプラズマと液晶テレビの解体ラインに置き換わっていました。ブラウン管テレビの解体ラインは工場の隅に移されていました。ブラウン管の背面に使用する鉛ガラスはもはや再利用すべきブラウン管がなくなり、鉛のリサイクル工場で使用されていました。初期の液晶テレビはバックライトに蛍光管が使用され、中の水銀が外に漏れないよう解体ラインに屋根が設けられていました。液晶テレビになると解体ラインは意外と単純でした。

冷媒が漏れないように先にコンプレッサーを外してから中の冷媒を抜く作業に変わっていました。また、冷蔵庫のラインは旧来のフロンラインに加えてノンフロンのラインを新設になっていました。冷媒のフロンでなく、断熱材を発泡させるためにフロンです。

今回、視察で大きな変化は駐車場に廃家電のコンテナが置かれていたことです。エアコン、冷蔵庫は夏季に買い替える人が多く、夏季に多くの廃家電が集まることになる。従来は期間社員を募集して解体を行っていましたが、今年からは在庫を持ち、年間を通じて作業を平準化することになっていました。少子化の影響で労働者が減っていく状況に対応した結果だと思います。

家電リサイクル法が施行され 15 年経ちますが、この法律による回収率は 55%程度にしかなしません。そのため、平林金属(株)では小型家電、金属類、古紙、パソコン・携帯電話など家庭で不用になったものの回収する有人拠点を設け、ポイントの付くサービスを「エコ便」事業として開始しました。

再生業者が直接お客様から廃棄物を収集することが必要な時代の幕開けかもしれないと思いながら視察を終えました。



訪問先 株式会社シティライト  
レックオートリサイクル  
(香川県坂出市府中町猫山 1518-4)

日時 平成 28 年 12 月 8 日(火) 10:00~12:00  
参加メンバー

黒江正行、藤原康正、赤田啓介、藤原敬明

## 内 容

2005 年から完全施行された自動車リサイクル法から 10 数年経過し、自動車流通の形態も変化し、自動車販売、買取り、更にはオークション会場運営の(株)シティライトが解体工場を運営すると聞いて視察を申し込みました。

リサイクル部長の上村僚治様にお話を聞き、工場を案内してもらいました。

岡山県で主に事業する(株)シティライトがなぜ香川県で自動車解体を行うのか疑問でした。もともとはＪＵ香川(「香川県中古自動車販売協会」と「香川県中古自動車販売商工組合」の略称)のオークション会場を購入したためで、かつては一つの県に 1 つはオークション会場がありましたが、人口の少ない香川県でオークション会場の採算が合うはずもなく、支援という形で購入したのだと思います。

そこで何をしようと考えた時、オークション会場で落札保証した車が落札しなかった時、その車を買取り、解体費用が高く付いたこともあり、自社で解体業をすることになりました。現在、オークションからの解体車は 3 割程度です。

工場見学ではメンバーの中からまだ新しい車を解体するのかと驚きの声が上がっていました。

また、工場の中で外国人労働者の人が働いていましたが、この会社が雇用した人でなく、海外の会社のために作業場を設け、その会社で働いている人でした。

中古部品を取った後のボディから、更にその会社にとって必要な部品を取っていました。

事業は規模の割に少ない人員で運営していました。丁寧に解体すれば部品を多く取れますが、採算が合いません。販売価格は変わらないので、解体車をいかに安く入手するかが重要になってきました。後工程のシュレッダーで細かく裁断し、細かく分別できるようになったため、解体に必要以上に手をかけなくても良くなっていました。

若い人の車離れが進み、解体車の流通も変わり、解体技術の変化も実感できる視察でした。

視察の後、近くの田村うどん店で昼食をとりました。良き昔の風情を感じるうどん店で、テーマパークのような感じで人が集まってくるとされます。循環ビジネス研究会では今後とも視察を続けていくことによって、必要な知識の補充を行っていき、産業廃棄物業の診断を真摯に進めて行きます。



### ●○ソーシャルビジネス研究会●○

平成 28 年 9 月 3 日(土)に岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター「ゆうあいセンター」と共催で、『あなただからできる！社会の变え方』を岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」にて開催しました。講師の NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 代表理事 岡本拓也氏からソーシャルビジネス起業支援についてお話を伺いました。

次回の開催は未定です。

### ●○集客コンサル研究会●○

集客や販売に悩む地域中小企業の振興を目的に活動しています。

今年度は face book 広告の効果検証を行っております。

業種、広告目的の異なる県下の中小企業を数社選定し、face book 広告を用いて様々な配信方法について実証実験を行いました。

現在その効果の検証・評価を行っています。

### 近隣協会との合同研修会開催

今年度の合同研修会は香川県・岡山県共催で「経済講演会」を開催いたしました。

日時：平成 28 年 10 月 29 日 15:00～17:00

場所：サンポートホール高松 54 会議室

懇親会：17:15～19:15

岡山県中小企業診断士会からの参加者  
講演会 13 名、懇親会 9 名

中小企業診断士で全国的に知名度のある「三橋貴明」氏を招いての経済講演会が、香川県中小企業診断士協会と岡山県中小企業診断士会共催で開催され、岡山県中小企業診断士会から 13 名が参加しました。

「日本経済の真実！～経済成長の絶好の機会が訪れた～」と題して、約 2 時間統計データを分析しながら、日本経済の実態をわかりやすく伝えていただきました。これからの日本経済には成長のチャンスが来ているとのことなので、成長戦略を得意とする我々中小企業診断士の出番がいよいよ到来したと、意を強くいたしました。

また、講演後には三橋氏を囲んで懇親会が催され、両県の診断士同士の交流が一層深まりました。



### 無料相談会

【しんきん合同ビジネス交流会にて開催】

日時：平成 25 年 9 月 14 日(水)

場所：コンベックス岡山

相談員：加藤弘治 氏、田邊一平 氏

相談企業 1 社

【10 土合同無料相談会開催予定】

日時：平成 29 年 1 月 23 日(月) 9:00～15:00

場所：岡山会場：岡山市役所 7 階大会議室

倉敷会場：倉敷市役所 10 階大会議室

津山会場：津山本庁舎 2 階大会議室

相談員：岡山 加藤弘治 氏

倉敷 田邊一平 氏

津山 大西 修 氏

### 受託事業

岡山県信用保証協会アシスト事業 (160 件)

岡山市企業支援補助金事業 (13 件)

倉敷市経営相談 (28 件)

岡山県生活衛生営業指導センター経営相談 (4 件)

新見市経営相談 (5 件)

産廃診断 (2 件)

岡山県森林組合関連企業 (1 件)

### 会員投稿

#### ◆「マラソン」の経済効果考察

会員 木野内俊典 氏

岡山県では 2015 年 11 月に岡山市街地をコースとする「第 1 回おかやまマラソン」が開催された。

おかやまマラソンの経済波及効果は 2016 年 1 月 22 日の産経新聞ニュースにて以下のように報道された。

『おかやまマラソン実行委員会事務局は 21 日、昨年 11 月に開催した「第 1 回おかやまマラソン」の開催事業費 4 億 6 千万円に対して、経済波及効果が 14 億 1 千万円に上ると発表した。』

2016 年の第 2 回申込者は第 1 回を 2 千人以上増加しており、ランナーにとっても高い評価の大会だったことが裏付けられた。

県総合グラウンドを会場にした関連イベント「マラソン EXPO」は計 12 万 6 千人で賑わったとのこと。短期でこれだけの大きな集客力を有するイベントは県内では他に見られない。

県内ではおかやまマラソンの開催に合わせて、岡山県内のマラソン大会と連携した取組を始めている。岡山を楽しく走ろうという思いを込めて



「RUN RUN♪おかやま」と名付けられている。

紹介されている大会は平成27年度で34件ある。

提言は、岡山県全体を見渡した上で、全国のランナーの様々なニーズに対応できる「トータルプロデュース機能の設置」である。

岡山県は平野部、海、山間部を有し、多様な環境が存在している。これらを生かすことで、多種多様な大会が開催できると思われる。

県全体を1つのフィールドとして捉え、全国のランナーにとって分かりやすくニーズごとに大会の特徴を整理して発信することで、年間を通じた集客を図ることが可能となる。

岡山県は晴天率が高いことから、荒天による中止の確率も低い。よって全国はもとより海外からも集客できる可能性があり、インバウンド効果も期待できる取り組みである。

再び2016年の第2回おかやまマラソンの話題に戻る。大会終了後の2016年11月15日の山陽新聞社会面の見出しは「何度でも走りたい」であった。ランナーにこのような気持ちを感じさせる「おもてなし文化」が県下に広がれば、岡山県は「マラソンの聖地」になる。世界に誇る聖地になる土壌は十分にあると感じられる第2回おかやまマラソンであった。



(写真：山陽新聞記事より)

#### ◆受動意識仮説 ～ブログより転載

会員 安原 朋彦 氏

YouTube をいろいろ観ていたら、慶応大学の前野隆司という先生が、意識とは何かみたいな話で「受動意識仮説」について講演しているのがあって、ちょっと理解がむずかしかったがなんだか面白かった。

その先生の話によると、人間が何か行動するときには基本的には「無意識」がそれを決めているという。

「腹が減ったのでマクドナルドへ行こう」というのも、まったく無意識的に決定して、0.3秒後くらいに「意識」が追認する。

「意識」は追認するのだけれど、追認したという自覚はない。

むしろ「意識」自身が主体的に決定したのだ、

と錯覚している。

人間の行動はすべてそのようになっている、と言うのである。

この説の裏付けとして、世界各地におけるいくつかの実験例も紹介されていて、その中には意識が無意識による決定を追認するまでの0.3秒間の出来事については認知ができず、0.3秒間の認知と記憶の空白が生じる、みたいなこともあって面白かった。

この説はまだ仮説の域を出ていないらしいけれど、おそらくはかなり真理に近いように感じる。すべての行動が無意識が決定していればこそ、ダイエットは失敗し、ギャンブルは泥沼にはまり、いけないクスリは止められない。

受動意識仮説では「意識」というものの正体は、無意識的に行動した結果を記憶して認識する「後付け」の機能だった、ということになるようである。

おそらく、犬や猫なんかは人間同様に無意識的に行動して、その行動結果をいくらか記憶し認知する。

食べるとお腹を壊す食べ物や危険な外敵などに出くわした時には、そのことを「エピソード記憶」として認知し、次の行動時に活用する。このように、意識による認知は生き物が無意識に決定する日々の行動決定を修正し、生存確率を高めるための後付けの機能だったのだろうと思われる。

その後付けの「意識」がかなり発達したのが人間である、ということらしい。

そして人間の場合、後から登場したはずの「意識」がまるで最初からすべてを決定していたかのような錯覚にいつの間にか陥り、しかし依然としてすべてを決定する「無意識」のコントロールが出来なくて思い悩む、というややこしい事態に立ち至っている。

たぶん人間が動物である限り、無意識の決定を意識が追認する行動様式は今後も変わらない。

人間に与えられたテーマは、意識から無意識へのフィードバック回路を活用して、いかに無意識を意識が望む方向にコントロールするか、ということになるのだろう。

意識によるコントロールの第一歩は、常におのれの行動を注意深くモニタリングして、おのれの中の「無意識」がどのような決定をしているのかをメタ認知すること、になる。

そして「無意識」が喜びそうな餌を見つけて事前にばら撒く、というような方法で無意識を導いていく他ないのかもしれない。

おのれの中に住んでいる「無意識」という決定主体の存在は、ややこしい話だけれどそれはそれで人生の醍醐味のような気がする、今日この頃であった。

## 会員の消息

### <新会員>

田中 良典 氏、片山 裕之 氏、谷許 祐太 氏

### <訃 報>

氏家 宏 先生 ご逝去のお知らせ

岡山県中小企業診断士会（以下、「診断士会」）の元理事である氏家先生（病氣療養中でした）が、平成 28 年 9 月 30 日、82 歳で永眠されましたのでお知らせいたします。

氏家先生は、㈱ブリヂストンを退社後、平成 8 年に経営コンサルタント氏家事務所を設立、また、診断士会の理事を務め、当会の発展に大きく貢献されました。

特に下記 3 つの事業分野の創出に貢献されましたので、紹介させていただきます。

#### 【創業塾】

岡山県商工会連合会の専門指導員として、創業塾で多くの創業者を輩出しました。

#### 【農業】

岡山県農業会議の農業経営改善スペシャリストとして農家の経営改善に注力。この実績により、診断士会は一次産業分野への業務拡大が可能となりました。

#### 【企業再生】

岡山県中小企業再生支援協議会のサブマネージャーとして、企業再生に尽力されました。

健康を害された後も現役を貫き通し、最後まで後進の指導をされました。

その功績に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 書籍のご紹介

### < 1 >

#### 『さあ、才能（じぶん）に目覚めよう —あなたの5つの強みを見出し、活かす—』

（日本経済新聞出版社）

マーカス・バッキンガム、  
ドナルド・D・クリフトン 著  
／田口俊樹 訳 著

知識や技能のように簡単には得られない才能こそあなたにとって「最強の武器」だ。200 万人のインタビュー調査から導き出された 34 個の強みから、自分の強みを探し出そう。それをビジネスに活かしたとき、革命が起こる！

（日本経済新聞出版社ホームページより）

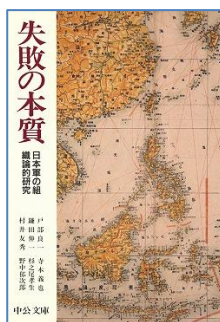


### < 2 >

#### 『失敗の本質 —日本軍の組織論的研究—』

（中公文庫新社）

戸部良一／寺本義也／鎌田伸一／杉之尾孝生／  
村井友秀／野中郁次郎 著』



大東亜戦争での諸作戦の失敗を、組織としての日本軍の失敗ととらえ直し、これを現代の組織一般にとっての教訓とした戦史の初めての社会科学的分析。

（中公文庫新社ホームページより）

## 事務局からのお知らせ

### 『中小企業診断士の日』制定

一般社団法人中小企業診断協会は、この国の中小企業診断制度が発足したことを踏まえて、11 月 4 日を「中小企業診断士の日」として制定いたしました。

本年より毎年 11 月 4 日の前後 1 週間程度の期間において、本部、都道府県協会では、中小企業診断士の P R 活動を実施することといたしました。

岡山県中小企業診断士会では、平成 28 年 11 月 8 日に P R 活動として、記念シンポジウムを開催いたしました。

来年度は平成 29 年 11 月 8 日に講演会を予定しております。

### 『中小企業診断士バッジ』

中小企業診断士バッジを一新いたしました。

中小企業診断士のブランドを確立し、中小企業診断士の意義などを広く社会にアピールするためのブランディング戦略の一環として、新たな「会員中小企業診断士バッジ」を製作し、着用を推進していくことといたしました。会員中小企業診断士の皆様方におかれましては、中小企業診断士としての活動時などに、ぜひとも着用をお願いいたします。



#### 編集後記

来年は「トリ」年です。みなさまのご活躍がトリのように飛躍できますよう、お祈り申し上げます。

岡山県診断士会会報 第 10 号

平成 28 年 12 月 15 日 発行

一般社団法人岡山県中小企業診断士会

〒700-0907 岡山北区厚生町 3-1-15 岡山商工会議所ビル 8F

Tel 086-225-4552 Fax 086-225-4554

発行人 会 長 児玉 健治

編集人 専務理事 黒江 正行

